

情報学研究科

I	研究水準		研究 13-2
II	質の向上度		研究 13-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、情報学の国際的拠点としての役割を果たすべく、学術論文、会議プロシーディング、学術講演の英文比率が 60%～80%を占め、それぞれが一名当たり年平均 3 件程度ある。学会の学術賞の表彰数が平成 18 年度は 35 件、特許の取得数も年 10 件を超えているなど、高く評価できる研究活動が維持されている。研究資金の獲得状況については、共同研究の件数は平成 18 年度には 28 件あり、科学研究費補助金や受託研究も一定の件数、金額を維持していることなどは、相応な成果である。

以上の点について、情報学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、情報学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、個々の専門領域における研究成果のみならず、総合的な情報学という新しい領域を発展させる高い水準の研究成果が上がっている。特に、学術面で卓越した研究成果を収めている。例えば、変性パラメトリック型の言語機構の研究は国内外の研究者の基盤となっており、都市空間におけるマルチエージェントシミュレーションによる実践的研究は数々の技術賞を受賞しており、音楽情報処理研究も多数の論文に掲載され数々の賞を受賞するなど、幅広く国内外で評価の高い成果を上げている。若手の研究者の積極的な研究活動も評価されている。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、情報学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、情報学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。